

			児童に関わること	保護者に関わること
1 いじめ防止に関すること			<ul style="list-style-type: none"> ・世の中にはいろいろな考え方をもっている人がいることを理解させる。(道徳・特活・総合) ・学級活動等の時間を活用して、インターネットの危険やモラルについて指導する。 ・「人権教育プログラム」「心のノート」や東京都道徳副読本等の資料を活用して、道徳教育の充実を図る。 ・正しい判断力(自己指導能力)を身に付けさせる。(道徳・特活・総合) ・進んで奉仕体験活動に取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のものや他人のものを大切に扱うように育てる。 ・携帯電話やインターネットを使うルール作りを行う。 ・友達の気持ちを踏みにじったり傷付けたりすることの重大さを日頃から児童に伝える。 ・地域での様々な体験を通して、集団の一員としての自覚や自信を育む。
2 いじめの早期発見に関すること			<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に休み時間など、子どもたちの過ごし方に気を配り、子どもが集団から離れて一人で行動しているときは、声をかけて話を聞く。 ・個人面談やアンケートを実施したり、休み時間や放課後などを利用したりして、児童から情報を収集する。 ・スクールカウンセラーなどによる相談窓口を周知する。 ・上履き、机、椅子、学用品、掲示物等にいたずらがあったらすぐにに対応し、原因を明らかにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもとの会話をできるだけ多くする。 ・服装等の汚れや乱れに気を配る。 ・子どもの持ち物に気を配り、無くなったり、汚れたりしていないか観察する。 ・悩みは何でも親に相談できるような雰囲気を、普段から作っておく。
3 いじめの早期対応に関すること	(1)暴力を伴ういじめの場合	いじめられた側	<ul style="list-style-type: none"> ・本人や周辺からの聞き取りを重視し、身体的・精神的な被害について的確に把握し、迅速に初期対応をする。 ・休み時間や登下校の際も教師による見回りを行い、被害が継続しない体制を整える。 ・いじめの理由や背景を突き止め、根本的な解決を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・我が子を守り抜く姿勢を子どもに見せ、子どもの話に耳を傾け、事実や心情を聞くようとする。 ・いじめの問題解決に向けた学校の方針への理解を求める協力してもらう。
		いじめた側	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめは「絶対に許さない」という毅然とした態度で臨み事実を確認し、いじめを止めさせる。 ・いじめの理由や背景を突き止め、根本的な解決を図る ・カウンセラー、教育相談、児童相談所、警察等、関係諸機関と連携をとる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校はいじめられた子どもを守ることを第一に考えた対応をとることを伝える。 ・事実を冷静に確認し、我が子の言い分を十分に聞くようする。 ・被害児童、保護者に対して適切な対応(謝罪等)をするように伝える。
	(2)暴力を伴わない場合	いじめられた側	<ul style="list-style-type: none"> ・本人や周辺からの聞き取りを重視し、精神的被害について的確に把握し、迅速に初期対応をする。 ・休み時間や登下校の際も教師による見回りを行い、被害が継続しない体制を整える。 ・いじめの理由や背景を突き止め、根本的な解決を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・我が子を守り抜く姿勢を子どもに見せるように伝える。 ・いじめの問題解決に向けた学校の方針への理解を求める協力してもらう。
		いじめた側	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめは「絶対に許さない」という毅然とした態度で臨み事実を確認し、いじめをやめさせる。 ・いじめの理由や背景を突き止め、根本的な解決を図る ・カウンセラー、教育相談等、関係諸機関と連携をとる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校は、いじめられた子どもを守ることを第一に考えた対応をとることを伝える。 ・事実を冷静に確認し、わが子の言い分を十分に聞くようする。 ・被害児童、保護者に対して適切な対応(謝罪等)をするように伝える。
	(3)行為が見えにくい場合	いじめられた側	<ul style="list-style-type: none"> ・つらく苦しい気持ちに共感し、「いじめから全力で守ること」を約束する。 ・本人や周辺から聞き取りを重視し、精神的なダメージについて的確に把握し、迅速に初期対応する。 ・いじめの理由や背景を突き止め、根本的な解決を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・我が子を守り抜く姿勢を子どもに見せるように伝える。 ・いじめの問題解決に向けた学校の方針への理解を求める協力してもらう。
		いじめた側	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめは「絶対に許さない」という毅然とした態度で臨み事実を確認し、いじめを止めさせる。 ・いじめの理由や背景を突き止め、根本的な解決を図る。 ・カウンセラーと連携をとる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校は、いじめられた子どもを守ることを第一に考えた対応をとることを伝える。 ・事実を冷静に確認し、我が子の言い分を十分に聞くようする。
	直接関係のない場合		<ul style="list-style-type: none"> ・傍観することはいじめに荷担することと同じであることを考えさせ、いじめられた児童の苦しみを理解させる。 ・友達の言いなりにならず、自ら意志で行動することの大切さに気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめに気付いたとき、傍観者とならず助ける側の態度をとることができるように子どもに育てる。 ・いじめに対する考え方を理解してもらい、どんな場合でもいじめる側や傍観者になってはならないという気持ちを育てるように伝える。
各家庭での取組			<ul style="list-style-type: none"> ・自分の子どもに关心をもち、子どもの寂しさやストレスに気付くことができる親になれるように啓発する。 ・父親の存在が大きく影響することを伝え、母親任せにしないで父親も子育てに参加するように啓発する。 ・携帯電話やパソコンを使うルールを保護者と本人と話し合って決める。 	
地域での取組			<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちを「地域の宝」として育てる意識をもち、子どもたちに地域から見守られているという安心感をもたせるようにする。 ・子どもたちと顔見知りになるために、子どもたちに出会ったときは挨拶や声掛けをお願いする。 ・公園や遊び場などで子どもが困っている場面を見掛けたら、積極的に声をかけていただく。 	